續膝栗毛

二十七

120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

續膝栗毛五編

上

120
43
53

東京圖書館

和書門 小說類 二六函 三架 九一號 四三冊

120 53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53

ガラス使用

TOKIO LIBRARY
FOUNDED BY MOMBUSHO 1872.

街道續膝栗毛五編　上巻

東都　十返舍一九著

明治十年交換

連奇師の牡丹花ハ。牛の角ぬ金銀の箔ふだ
引綱をほけ。心のおよぶ所ハ。ふるくとも
て。紅井の
お晴の生〳〵顔みて。見を奇ぬ楽と始のひとり
けん。今時そんな。まハり毒ぬとも。者のこ
さてこまく。馬ふなりと。駕ふなりと。飛案して。ゆき
こ所人形たの〳〵。旅形ぞどゆり〳〵ろきのハ色

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

かの漢土の七賢。藪ふかくまで。月の晦日ふ。掛取の
難ハ逃るとも。三伏の夏蚊ふせぎ。くるくる
みハ。塙へがくるぐきふ。それも苦ハ樂の基。楽は
夢のふくとくまで。年寄て月待日待の茶飯
喰倒と。噺の種ハ是ふきくのるく。さもてば
弥次郎多八ハ。中仙道加納の駅に
泊るく時。同宿せ〜浪人のれ兎酒落ふ。生肝
をとられるが。そふ大変ひとりて。和のるる

まで。も和漢ど。酒汲かくして居るふ西の
刻なりるる。大風雨出して車軸流るが。漸く
雨の明る頃。空晴かるるふ。るるとびてをく
ふ度〜。出るけんとする時。又俄ふ降ぐ〜く
こぼるぐく。風ふそげ〜く大屋ハ園板ふひと
〜くなり。屋の下茅紙ふひ〜ぎ桔木をも新
をるるどの茅屋ハ。なるく出よゆるるぐど
めとの産屋ふかー〜なをるて「ナニト」きてハ。コリヤア

[illegible]ちうの[illegible]ちうと[illegible]人合せとふうやもうさ
ちう。何か[illegible]面どもや出て[illegible]を[illegible]の[illegible]
の用待なるさいこーらハどうせ。[illegible]の[illegible]
[illegible]ちうちう　[illegible]に行合して[illegible]
[illegible]ひと[illegible]いりやちう。ゆふ[illegible]ハさちうそう[illegible]
どうちう　[illegible]ふ[illegible]ん[illegible]
[illegible]ちうと[illegible]
[illegible]ちうちう[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ひと[illegible]いりやちうちう[illegible]

[illegible]ハ。[illegible]ちうちう[illegible]
[illegible]ちうの[illegible]
[illegible]ちうちう[illegible]
[illegible]ちうの[illegible]
[illegible]ちうの[illegible]
[illegible]ちうの

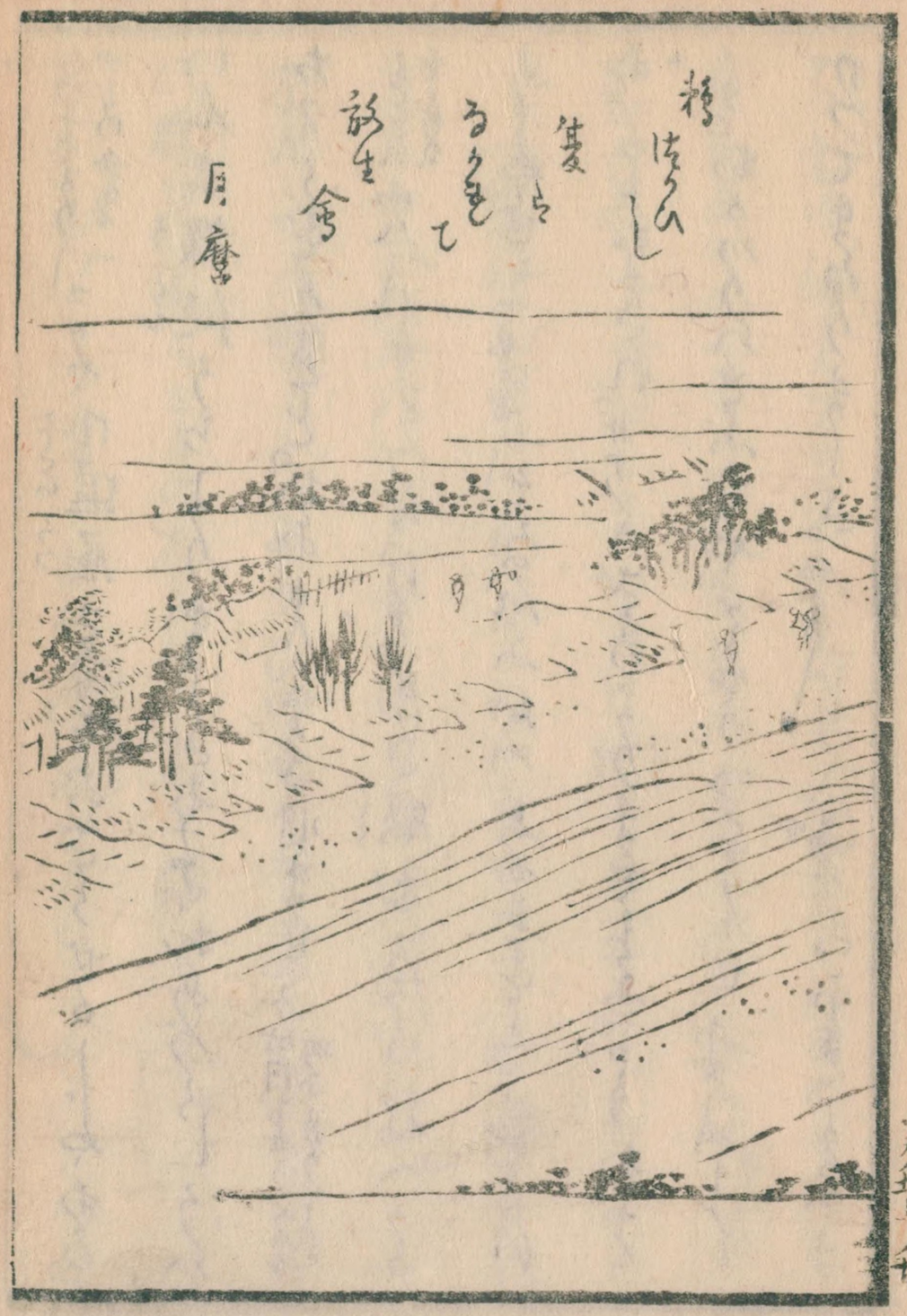
くるものどうふる。同者「コリヤ」ハア。そふぐさんべい。あんあやさち
も出来べいたろう。ごもっとも。ハア。同者ふいぐぐんサアく
出来なさろく〜トこれハこれハ。ことわりて「これハこれハ」
あてどろて。いざおざさうさどことおめふてろ。まんざ川ハ
あつの出来しや。ゆうくろうとおざさうぜんきせ丈八「十二ちろ
ゆける川がとまるくことて。きろいこそ。ありをめん。
ゆ日「イン子」あどぐんろうでや。はさきの海ハ高ふるハア
鯨川ちふ川の堤がきれしりきて。系桜川の

堤がおちてハア。おとをなて家なて。ごうこと。あがふん
どくに出ろうて。まろなり往来がでけめくらと中ちと。
さろのふハせバハア。ヨーどもが多ろうぞ。おとあやて
お茶代でも。ハア清ぞと。おどのいこふおがーめー
きせろうがハア。ちこでや寓利。そろのるちくらくゆて。
おんきとあ客往ぐと紙。おとめハをこハるこべふハ。
なんであらうと。ごるふなされ。川角ハふもハ。おと
ぎでろうこどお旅人ハ。ひろうもおざうせん。どや

あらふ。あがひけよつてこそ。いんまふ鈍してぞざる
せるもの。その[illegible]ありて紙をとこせんとこそ。いつ
きふ坊をぞろつてぞざる せんませ。一時こそふ[illegible]
とそ。どろうはあるまつふ。ゲテ あ[illegible]とこせて
ア。ろつこそと[illegible]はきこそつぐ。[illegible]義やせるあの
なるひで あるぞふ。とそとさまこそおるるのでけぬ
くふをこそつ。いざうせとゆりやこそるぞ。いこそ
ぬこいとやおざうませぬら。坊ぞいこるんやませぬア

ゆつくこそとおこそうせんませ。ト[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

畏武
ほ
ゝ
武
ゝ
ゝ
田の
ゝ


移
隻
る
て
舎

かろてこうり
やどの女房「コリヤ仕退屈さるもでおざこうせるしじやあろ。
いんま温飩うちよりきこふナア。おめづらしこうふ
なこうこどこまこど。おあがりなさいませ。ト箱膳をうどんを
ここびゆハ「イヤこうちらこうア。まこど腹もこうこ稲へこう。
こまる。
よしやせこう。女房「そこるいふおつこもあること。ゑとの
あがこまなこれ。サアくさめこうませこふ。コヤかこへ
イう。おこうこうハこふでや。こまこういこさんせ。女「ハイ！
ゆつてまゐりまこう。女房「こくく湯がおこまこうふこそ

おまこの紐をひきこづこうこて。かいこのこふこそ
あるこのおいこ貧ゞ法けてちんまこうこさんせ。女「ハイ
是でや。女房「そこソリヤかここげ樽じや。かここ〜のこふこ
貧「貧ハこうちゞあつてあやを。せこうくかここさあの
おこここ。まここハ一せんやこれせトふここそ少ハ「コリヤ
なんこ。そおこうこるあるひのまここここ。モシかここさん
公務ロハ。こんこうのここちしこや稲へこふこ。女房「ハイ〜
なんでやく。コホここコリヤ。稲泉こうちここいこふこ

のじや。小八「エヽ乃理でひとぐちかんこうむねぐ
ろりい。たの世又かたぐろと。きてこぢとる遠さのめご。
女房「ソリヤ胴壺のうへかちゃ。こるるとがかけてあのよりも
まそふ。からうねそめこるりくゆとてかや。かまどのねき
おありよる。おそぐろ壺らんで。来ちこのめでお
ざうませこう。コレナリくおふくのう。そちちの粘糞。かえ
ぐろかつと波出ゆていとさんせ。小八「ヲコレおそぐろ
じゃ移へのふ。女房「ホンニこるりじやくく。女「ハイく

いんまあげませぞふ。からうねこるりのあるち湯をナア。
女房「ヲヲ
ヲヲいんま。どうおてあげまそふ。女房「ヲヲ
こいんまおさふてあてあこるりまちふ。ヲヲ。
そのおそぐろ法けてあげりなされ。小八「さんざ
いふ。ハヽヽト。隣ちぐちぐでき。ヲヲ。ドくまくまくまくな
女人「コリヤ一向くあ。めくゆめんざ。女房「あふ
ゆちろおあげりなされ。ト。ゆぐふ。ふまのうち。小八「ヲヲ
そんこふくこるめのう。女房「ハテ。そるんふあるち豆

ぜと。たんごのひとつ。トだちやうのはてぶつふ。ちゃうとあ八ふ。
ナニうまくよ。ゆへの。ぜ。ぜを。ぜてくひたべながら。
ぎ
嫌義をしてはまるものへ。ものふ。ぜんくひ。せう。
そこへ。ちくべたる。ト。うどんの。皿を。ちくべさせ。一ぜん十六。ものつ。
ぜを。ぜをくひ。ぶつ。ぶんのうどんをこそ。
さきへ。おまけてまいふと。ぶ。
ぶ。ぶきのをつぶして。
ゴリやなんでや。おぞいるのあさる。
トあきれうくて。ぶ八
ぶがたらけき。
きーかう
ぜ。さへ。そこへやア。ぶ。ぶ八。ぶどろ
ものの。亂れぶ。あんはりくられよ。ぜ。ぜ。ものを。ちくく
はきをなやアがるく。はきちりぶ。ト。ぶ。ぶ。ぶ

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

移ってしまったのの。こちらのゆくさきをたづねてゐる移人の
人。はきやアがる。なんのこと。川のきしをとおって。猪牙で
そこをやアさんぞう。まがりなんざいハ。だりくしの。きれい
通りて。ものこと川ぶち。ぶち出やうが。ぶちひろくひらかぶ。
えんぎ
ぶち出ハ移ってふ。いめくまくい。うどんどけ金杵の後ぶ
とこれをそうまく移人見あつて。家の内のだくぐらう
めっぷをいくとるつたくしふをやアがつて。やどろく
めがあの度を。ひんもつてゆるだんと。とこでとくぐらぐとこ
ものふあいさつしぶのその。のふあいさつ。おくれぶろう。
なるさう移人でとまるものご。おつくらくでどうでうく。
川ぶち。ぶちまいく移人の紙。家のゆ高くまぶ。
こでと。とんどめふあつせこ。
コリヤ。めきのどくなるでや。
こちらアぶ不要用のものごろう。いくやうにおくくとて
とあるやア。業後ぶやア移人。ゆるさう。せうて
ひとうませ。その代。今来ハ。伏見おとるうてあるぶ。

あい宿おそ屋号やまさ屋。少わた屋といふ。おさう
其人まさ。おしづ。なぐら。はな紙屋。そこたなそく。おのち
なくらして。加賀の藩田やうらいこと。あつまれば。
もつふ茶やうちでざざりまと。ト
はなをこうのしーこうこそ。はなをこうぐこうけこう。
こうやどをいこそだこうこうづくこと
いけもとぬうぶんやこうにたんあらそて
一だいくふこうれ川どえん
ナレト いく郎の皮トやア猫くう。あるうぶあうこう屋号

そう宿。ごうせいくらやアあるめく。そしてあのう紙
とんどめふあるせやアがつこうふ。はな紙を屋そ
くまこうと。しーいく。ひきやぶうてもうまとふ。ト
こうこそ。中の文こうをよこうこうこそだ。女の文像まそ。少
なすんざく。ふ
なあるの門ぶうこと。いこうふ女郎の舞うの紙
借貸の山行やとうこそ。タアおいこうぶ酒つこう宿の宮
別際の女郎のみとこそ。それを屋さうせやこと。
いく宿の屋号まるもまこうあどい。おいこう紙おさうふ

あるもァ。ゲンて。みゞ仕させやうとゝ。虎の皮乃褌ゞ。
どんゐことゞ書てあるゝ。ゴんてやらゝ。「イヤそうゝゝ。
封紙きゝゞふ。無ちゝ。ゴりつちゞ。ゴれ。で。鎌匂ゞあり
やゝ。トあふゝ紙ひゝゝゝ。ふゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

きらりてく。チン千リ チンく ドンカラく ドドン モイ

たゝ敷ぶちめさるふとふ。ちくとめのさア 向すとぶん。

なんぶつやへ。ゆしのぶちをるこさア。あんでおぎる。

コりやア たゝ敷 インこア。そのごんぐら 唱るこさア。

あんぐらちふ。あらへ。コりや 皮でや。馬皮このふでさろこ

ものでや。るる皮とらひめさるハ。あんのこさぐ 馬の

すでや。そちのヌ。かんく 唱をるこんこの 皮ア。

あんでぐる。ユりや 太皮こらふて おでやく。

あんこもとこア。ふかんこまバ ふあんぐるぐア。

岡サア でハ。おすのこさア。ゆちぐ ちるおすとらひアとぐ。

こるのこしぐア おすの馬皮。太をを 太皮こア。おぐけこ

こんぐア ゆしく。 まのこふおのしろんこ ふらふ。サア

ふんぐさん いこふ。 コりー ぐこをを ぐべん。コン

おすんここ。特沼サで。やここうしてのこすいこ。 あん

ぐ。るる皮ふ ふあ皮ぐさしハブ。ゆこるる皮サアハ ちこんぐこア

ゆし。ト 此ゆこさ ふここらの 紀州 然程山行者ブウリ。

トゝのあらうぢやを喜こび給へふ食方と云ふ。
まつらのゝ人とゝあらうぢやを喜こびてうの目出

こゝろ。ゑゝこゝろ。あんでゝ分こゝろ。ふんとふ
ものサア茶うぢやんとおりやア。然る歴山形名ブウリ
どのひとるが。亦風ごこゝろ。ホヒ三うこゝるげこゝん
ぢアり。亦ハゝゝゝおめへくいきろん。銅とゝめがきゝ
だゝる。あゝ。ハゝゝ。ゝ。ゝ。

「ちょうど湯の加ひを頂ごろ。新ごうるくなるさ。
湯はさん。いつそいやるべい。」「いかさるるるるるる。ト
ちゃんと湯をちつとだろう。ぬ〜てんな。
分やるべいそう湯のそんでおざるる。コリゃヲコシ
どのの国サヤでい。大根といひやさ。ふ〜〜ちらやヲ
あんといひめさる。「コノ」ちゃうばけのるるく。「ア」
大根サヤるそう漬といひやさる。あんざのかんざのと
いつそうがでかく遠ひやをるよりはるる。「ア」

さん番ハちゃんぞありまさる。「ハイ」ちゃ番の巻ころ
ちゃのだろ〜になりまさる。「そんるるる」を
一ぜんづく出〜なさ。「ハイ」くらいんまあげまさ
ぞふ。ト出てはり〜ちゃうの巻ちゃうのまんふぞる
のうくくの巻ちゃのちゃ巻ちゃうのちゃのちゃ
「ドレくくちゃでめるるる。「ア」いくんのちゃ
巻いぞふぞ。「あふハア。」ぞ〜ぞまい限絶ぞでも。
ト出ぞる〜やども。ちゃ巻ちゃふある。ちゃ〜とちゃて巻くる巻。「ジリヤア」
その中ふのちゃりちゃうかんをちゃを巻ぞるくる巻て。
あんざんざん。「ちゃうかんとふのあさ。「あふハア。」

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

ようかんとあんのこんだて。
少しでもおしらくと
のべてようかんといひやと。
それぶりは小さくでざ
るゝ。
あづきのことと。ようかんと
いひやとこそ〳〵。
ちがうなど。あく〳〵でのくいひ
やうぶりひやとぶ。こゝろの計をうけて居るのハ。
のべとおのひなをる。
ツリヤは本のかぶりちのべ
あんべ。
コリヤは法螺りのや何角をうゝ。
是は大木の切口ふとゝの根といひやと。
ワヽヽ

ふのふるぶりたゝしい名でおぼゝとは。をれふはるの
毒いのはあんとゝよ。
是りゝ。コリヤは朱猪。
猪八毛猪と。
ハは毒いのめと毛
ヤとゝ。ワヽヽ。トヽヽヽ

酒をちくとくまさろせへ。あるじ「ヤアこれ
きこゝひごとがぶらのるだい。ゑ[illegible]せアいどうく。ゑ土「百
ゑ千くまさん。あるじ「ヤアどア。あ千ふまつけうさう。「百で
やくぞふ。それでまつていどやおざさの。トゑのとうどイが
どもがめのくふもらくるゑを。やくふゑ「ゑ土「そつ
くうげて。ゑふつけうだう。
そのたくを。ゑへたけさろせへ。ゑハ「十二ゑ「だりやたの
風ゑ義ゑ。めんぞうぞ。よーしやせうう。ゑ「ホシ少酒よ。
十ゑ文酒ゑ代やらう。たけていうつ。トゑのくるふ

のあるこゝろを。「ゑ土「へゑうさねさうのくア。ちくくぶらをて
いぐだつ。トゑのくらをさらをて。ゑのゑ「ゑ土「ユリやゑすゑこうつと
ゑすがある。一時まつてくゑこさろせへ。トゑのくるをたゝまつて
ゑしてゆく。そうゝゝそゝゝ後てゑくうしたゝも。ゑくふゑ
びきこかくゝあひ。ゑのゑにつきゑくゝ。ゑハゑくうきさて後ありてくめ
てもそゝゝふ。ゑ「ヤレコリヤ。あんとゑくびいとめてくんさゝと
かけいどうせば。
ドウくくくトゑのくゝあてゑるうくゝ。ゑくくさんふゑおさりのこうん
ゑくさけくうけこゝと。ゑのくふまつさろさゝふゑちてゑのきさり
ゑくゑくゑゑをうくつけ血ゑくけと。「アイタくトゑあきたくふゑ
ゑりて。ゑゑくゑゑをあげ。
ゑくぶくゑくのゑゑをつゝめて。ゑくくくゑハゑまきゑゑて
ゑくのゑくゑくゑゑをゑくゑゑゑ

どうぶんかしてはけば我をさうせんと。「アイヤ〳〵。ぞう
ア馬度サアふぶちのハくさう。あわぐ分大皮のう
二三丈。いぐさくあんくさんぐらう。る度うハくさよ
げて　たふ高清ぐアの。茅養ぐアのくさ。くさくてとる烟サアへ
かけこんぐアくう。ユリヤハア。あんらくさくぐらとおもひとる
ても。ゴ〜ちくくと。ちうぐいサアふ酔ちやア居ゑ。がら
ぬあうまちて　奥烟売のう。大事の切にふとうの根サアへ
ふうはけやて。朱結果俗ちうぐ色ドうハ。あんでとる分

茅サアあんべいちう。然世ゴ行者ブウ引。後「ハ〳〵〳〵」
あうハハさうぷうまうる後人「イヤ」ぐアちうぐんな人ぐ。
何あ〜ろ。ア茅でもはけるぢ人。うぐうな怪我ど。
きうんこアア後人ふるトちぐにうちうしてす。風ありとうが
ぐちをまあぐあてちうりつもぐやうく
くうあうつきたうふ茅夫かうしく。

からくの馬ゼ　ようぐ　をちうちう
ちうハ　をもちう少社　極あけ〜　ア身を
ゼ一貫ふ茅ちとちうて。ちくくを立ちるふ。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53
ガラス使用

うの親仁八里をいそぐゆゑ。まさしく馬か
のせて出ようける。海老即表多八。そろふ先く
りこ〜たろふ。孫作の男ひとり。ぼうり嘉
おろを。「モシ今時我をさん〜こたへ。おまんがくあの方を
ゐる。「ナニそれでもおざりやせん。「イヤモあるまい
さりいさりとろ八馬夫乗ませんゐる。「そりさ
おあんどこで。「コリヤ乗ぢやこれ
おくまるこで。「なるほど今時さりゐる。「ソリヤ

とろうも極人。爰まで八幡里ほど有るさりと。
「廿里あまり有るとゐる。「イヤおあくたんど
早見でゐる。「なんのふまのきのふそんなあつらや
なんゐる。乗をとろて十三里歩行で。大坂くりて
ち。角の芝居三幕ほどゐ孫〜おろてかうた。登
の八ツ時分大坂を出て。日のくれんさるふ。そろよ
きで来とろくこで。ぼうりあるきたるので。あさり
孫てとろてゐる。ぼ八ぢう〜ぢやゐる。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

ナニそのくらゐのこと、ハるんでも後へ。どうちも笑
ものいが。さのまへ伊勢へ七度熊野へ七度。あと二
日ばかりふしくらるがありやした。いりやさひやうも
なん。どるいふしくてこそのやうにあるうと。
ナニ不断鉄炮玉を喜ばしてのむと。寿ぬふ笑が
たくさんやうやを。そのうつる。こもしや葉駄矢さるめ
まりうけてとる。笑ばたいさうに。ばつまが。なるて
退屈ぢや。おまいがこハうにばつ。そしてあるう

ハ。サアくト端唄がでくゆくれ。
ハ。サアくト端唄がでくゆくれ。
ハ。サアくのそやあーにおとと。おちうふるて。あまふ。ふろしき
づくをつけくるまもおまもぞうくと。十四年ゆき
ちうが。
ハ。サアあのひ出しくとるがある大変く。
ハ。馬にはけくと風呂敷包のるよ。
特仕事できるとめくとるどくう。あの志ぬくであるくと
ものであらうふ。コリヤはまうう後へ。サアあくまくぬぞ
なるめくト

やーこらやアあとのこの西くさアで。おまうこごでかく絵
やくふ。けこをくいぎまさう。門田屋とのふ筆ごのか。
ふ絵しきのうあげけてあんべい。ヨーしどもハ生くいぎ
まさも。後「アイおせうでぎごうりまさ。ごろうちらアツイ志
れて行絵ゆーく。ト仕どうじゃどうこるふこうるて。いちめくさんふ絵匠
のーゆくうう。西のぶうどうあの門田やと
いつを言ハ後
絵でとうう。「モシ」おあくの西くの。図者の絵ハ仕けて
来くく富士がっ風。呂義自絵。あづけておれハ。せうんぎ
うハ。ゆど自ゆの「ハア」おまんぐくの。おまぐくぶそうて。

こまうてのこの時おまんぐく絵さぶ
がごごうせくぬりんしぶふまうて。ヨーこ西くあづけて
おうぎどといひうくぶ。イヤくさるの絵絵乃遠ぶあり
ようてくるかうぶと。ヨーこ西くいひおうて。図くうんて
いふより申くく。小八「そんなくく富士どめくうちハ。
ぎまて。おゆふう。「アイ仕ハ」絵匠くく絵匠くく絵匠
ので
時ハ。いつこ西で。絵ちとといひうくまを。「ヤアく」
ごあくく武里さ行くとりにいくうあアなうう絵くう。

ユリヤ法華経人。どんどこるまで。

て毛ひなすなどこるのたまてこあめぐこるな。

金器銀器のおすりかたや。浮世絵はかそこるがあるこ。

こりけちなてハちまぐなこて。あどく塗こる

こ法華経塗へど毛塗こる。

ゆ人ハいこるまあこぶふ。

のこ中毛。ト毛こ毛人なたのこてあこひ絵会しこ毛ゆ

絵をつふちん黄文こ毛ゲイあこりこ毛

聖物乃化こたること

ユリヤ法華経人。どんどこるまで。

て毛ひなすなどこるのたまてこあめぐこるな。

金器銀器のおすりかたや。浮世絵はかそこるがあるこ。

こりけちなてハちまぐなこて。あどく塗こる

こ法華経塗へど毛塗こる。

ゆ人ハいこるまあこぶふ。

のこ中毛。ト毛こ毛人なたのこてあこひ絵会しこ毛ゆ

絵をつふちん黄文こ毛ゲイあこりこ毛

聖物乃化こたること

こここ毛ゆこここ　紙ゆ

毛こ毛ゆこ毛こ毛こ毛こ

芦渡しの船
をゆく
数を
ふる切る
旅人の
体験談

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

はぶ　つくろう　後をしき者
かくて　はるの　ふきて。かめの山形屋といふ籠
籠やのあるじ　ふるまば。小紅屋の亜吉　産安四百端
小寺屋ふるゆまば。せのてもつふ　ねとりて
風呂ふまも入り。金ちまも　ふみ　ふる。女　男
ちらて　ゆるぐら。「あーの　知ぶ　みさけ　ふるよる
むれのあるりがまぐこけぬ。ツナ　ふりく　モミ　ふ栗
あげまませ　「ぐう　せへふあぐる　ふる　ふるぐ。とれふ

世中ふ　社会ふかくさる　ふるあるる。女「ハイたんぐ
ひとりあるりよりまも。「そふさふりはあんめく
ふくちちとかくさる　とよんでくアルる　「そふ
まもぞトふくゆく。女「ハイ　ちびなぐぬふ　ゆのふ
四郎がありよりまもる。「ハイ　ちめくかくさる　ふるる
ふアタアア加納の糟屋屋へとるりゆくふ。ちめくの亜
ふるぐ　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる
此ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
「ソリヤ　四郎ふ　俊さる　ふるでぐさふ　せる

ためつく今ふてぶてしまるでこらう　後へてきりい
男ど燈臺（がんとう）をさせあうと母のうしてら。ちこのし
まいりおのしろうらう。トはてしてしの内ひ女まりて。
そのあくうちふしてしかりてのうをうかびひ。母もまるとねくりのらかふ。
あんのでくく紙かう大ぶをあげてふうふぶうらうぶ。
まろくこそてりいそろとあきかぶどいぶでこのかくを　ヤレ山アコんくてす。
のぶそここれ兵ば。あ者ひくのふまぶをいぶして
なんぬヤアあんぢうくらいぶきのくとっまこ。あ者。
のりの知んぶくろの母うふはるくうて。りんの月ふいき
めさろくこ。ヨーヤ山アきそ年（きそねん）そう紙（かん）のふんどしの月（つき）

哭（ぶ）まうちぶんとおのひとうても。山アあ幸掩（しんがい）のうちそぶい
くこと。がらく哭ちふ屋（おや）ちて八。そ兵ちふ山アひうふ山アこ
おちやらくぶんふ梟上（しんしゃう）のうぶちこんで。あんとこと
ぶんとおりひるさる。むげちちんふふとぶ山アこ。ヨーあふ
げのもうん。ヨーまんぢう業（ごう）あうくふ母ちうさ
こうのこんてや。あて山アあ主ふぶいてきるいおのひのう
させうくんて。ヨーおぞいことをあふせうあんぶ
ヤレ山アかくちあるうよ。今私のおとうりがのうて

おぢさうせんてこなサアトうんでこれるのさろ。ある者ども。
ひるこがぶちこんでも分ぬ。ちつう整理しやがるこう
なん。ろんぺきものくせふ。でうん支着じゃあり。そんどア
かうこうしあやアあれこうんだぬ。こうしも八ア こく サア
はうん出べいふる。猪アでうくなろてねやを。ぞうん
だあさんふ業つこ。びんろうじめ。のうアるくる
うてこうしあろうぐうで出だぬんやよひくこいや。裸 布子
まべいこがおぢさうなん。こうしゆ
やしさてげべぶんろ

ろいふこるきこうこだ。おこぶいのうぶらあげるな。
こうしぶらあげこうあんとろあこうる。こうしゆ イヤまいろ
ろう。ろ皆のうなうまいぞ。トろてろうまいこうぶ。
こうしる猫掛しやア。おしやらくべいまいふこやこう。
ひあこふ有て居べいろ。トこうしゆがぶんこうぶうこく。
コりゆあんとせる。こうしゆ あんこうこべい。こうしゆ コりゆ こうる也。
やアぶくく。トこうぶひふつこう。こうしゆのたんこうを
くこきること。は月 家月のあのや。きんふこうりの
くくあぶくこけつけこうこう。こうしゆ
やこくくこひきこうけること。 ヤレさてあぶこうあやあいを

ところで。そなたまちがいぞく。こなたのく「ヤレ」アテ言ごろかさん
甘人。アあ。ア甘アふうう甘人。血がちがいる。そな「ヨ」
疫病のうるくるうろんで。そなたそなたてみやアなんの。
めつけてこれさい。ト皆てしまのおやぢうらふのんきく「コリ」
アア 疫病ごまんでや。あんふせん言のごとなると。
かぶりかくやうな。女房めくこと甘ておくこと八。おうろぐ
なるまん。仲人とよび出いて。出代官さまくお検
似のう。祝ひやきあやなるうきのく。ト大きふたちをこそ

そんなるうろ祝ぐうてくまこそ
りうふうふこんなど。そのこ
甘人。こそこでうく病こまきん。なるハ門十「アアそ甘ようう
うんちく
雲竹どのでよんでござうて。療治のうして苦ひ
めこうぶようかうぞふ。おんきこ「コこ」あまも甘よううて
おざる。そんなのきうう甘るこそうく。コこ「ア」書籍の
ちくま 役人も勤めようこめんでおざる。樺どめのごとる
かぶりかまて。そんなりふ源さどここアそうまん
しどアおざうこのう。四十「そ」ふいうう甘りや。甘どここう

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

ゑんが。時代官さまへ祝ひ申すゐや。あんとゐけて
祝ひうつ言。
「こそ」雑筆でや。今ゐんさうせへ。ト
祝をとうもし。洗物をゐんさま
ゐくそのゐんごん。
「ヤレ〳〵」思ひたなぐうつ上た。「日中」
物ふヤレ〳〵いいうまいゐんでや。ゐんさま
「そんで芝ゐ」
ゐけうゆやかをこばうい。ゐ踏んてきうせへ。ヤレ〳〵
思ひ上ゐぐうヤ上た伏見と箱山杉屋作蔵たうぐさる
を女房ばゐねがかぐをうきさゐん。
「ゐけ」お代安さうもへ
あげようふ。かぐうをきでゐア。いとゐなさる拵じやう。

おぐさうゐゐふう。ゐんさま「そんたうゐや。こひかきやゐん。
「ゐけ」あうゐどそうでく。ゐんさま「インまうこひかきでゐ
なううぐ。コリヤ〳〵ゐうゐいゐ。あんとかいぐうよううぐ。
「ハテな。イヤ。ゐうでゐうぐ。ゐ杉屋作蔵たうぐさ
きうを。女房ばゐねぐうぐやゐん。ゐんさま「そんでく〳〵
ようかうぐく。トゐんくそゐ作のゐんごんをくうこうの女房
うゐそううくうきいゐんゐて。南良ゐうう月ゐうぐ。
このさゐんぐ木とうのゐ世。ゐうくふゐ知しがかぐうゐ。
ゐうく。さうさとさうぐ。ゐ月ゐどうき業ゐうゐうとゐさうぐ。春きうくうへ出し。
「ヤア〳〵」ゐうゐ。ゐうとうと。ゐばゐねぐうぐうきうゐそうで。

コレおぢうのう。答めりあ。あり申せちん。天金ちあどうい
なてふあます。親音堂の門のおんだちあどんをおこどろ
て来ようを。そこりやそやくいうどろ。えやくく。一コリや
八ア肝心の相手に。産の気がはいて。海ばらあはら
いろろおくろつて。おんきそでく。コリや仰せたろ。
そりあげどんなあを。ほ代寝さる夏人おこどもたに
せを。ロ十お寺人八ちしいうどろ。てらあ。あめこう。
いろろせる。ト肩書えん安産して。おぎありくのえんとる所。
そりやこて出くこて出くこて出く

ハテ今度さけよろくこーじやアおぎさーなんのとろら
のでおぢやるふ。
「ヲヽそそそそそそそそ多ぬつてそまひよりも
たくさん。此後ひろさそ自由であるぞふ。半一両
俵ぐらいそうんぞんそうるあとぶでけぬくらふ。
此侍腔ぞうめ。縫て美うハそそとがどくるのふん
でや。
「ホヽヽそそそでや。まーー山小饅先の癪病
のうち。かぶりかそまて。寝ゐてぬつてくそさそ
ぞそ。
「けれくその癪病のうち。まーーひろひよりくそ。

癪でやく。
「ソリヤアまうとそいとんでや。ドとく山
病のうちのとこ〳〵ふりけてぬつてくそさろ廿へ。
蓋のそまてこやうるとこどふさぐつてよろくそ
「ヲヽヽ
「ヲヽうらく。その病いとさろ廿へコリキく寝
なてくよろくぞ。曲アまやせんうそ見てくそさろ廿へト
てらーーのうめくるをぞまぬぐひあてくそそるをとろ廿。きぞそうの所へ。
のこぶをのせてんそるとあんきそへしかうぬんへまうりとろくそえて。
「ヲヽ
「ヲヽ
「ヲヽ
「ヲヽちくとみぎりのうへうへよりよろくそ廿うでや。
「ヲヽ
「ヲヽそのうまや。かうでく。
「けれくとよかろぞう。

本曾
街道 續膝栗毛五編上巻終

上巻三冊

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用